



浪江町長  
吉田 数博

平成31年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

震災と原発事故発災から8回目の新春。皆さま、それぞれ、ご自宅や避難先で新春を迎えられたことと思います。

平成29年一部地域を除き、避難指示が解除されたとはいえ、不自由な生活を強いられている皆さまに、改めて衷心よりお見舞い申し上げます。「町のこし」を政策の基本とした馬場前町長の後を受け就任してから5か月。町民の皆さまのご理解の下、重責を担ってまいりました。特に、今年

は復興・創生期間の終了が平成32年度末と迫る中、時間軸を含めての復興再生が急がれます。もちろん、復興・創生期間後における復興庁の後継組織設置は当然のことであり、引き続き、国に求めてまいります。様々な課題解決に向けた取組が必要であり、大事な一年となりますので、全力を傾注してまいります。

さて、昨年は、復興、再生に向けて様々な施策を展開してまいりました。雇用の場を確保するため、藤橋、北、南および棚塩産業団地に企業誘

致を進め、1社が操業を開始し、棚塩産業団地においては福島水素エネルギー研究フィールド、木材製品生産拠点およびロボットテストフィールドの整備を進めてきました。

農業の再生においては、農事復興組合が19行政区に設立。農地保全活動を実施し、水稲作付面積は5.5ヘクタール、花き栽培は1.5ヘクタールで6人の方が、主にトルコギキョウ、ストックを栽培しており、浪江町が花きの一大産地となることを目指しております。

また、水産業再開は港湾整備が完了し、荷さばき施設、加工団地整備を実施中で、泉田川ふ化施設整備事業も進行中であります。

一昨年に続き、昨年11月に浪江町内で十日市祭が開催され、前年を上回る多くの方々にお越しいただき、たくさん笑顔を見ることができ、改めてこのにぎわいを取り戻すべく努力を重ねたいと思いをしました。

学校教育環境の再生においては、昨年4月に、なみえ創成小・中学校、浪江にじいろこども園が開校・開園し、子

若い人が働く場所、工場誘致の場所として産業団地の造成が進められています。藤橋産業団地には蓄電池の会社が操業、さらに、業務用洗剤の製造・販売等をする会社との協定も結ばれました。棚塩産業団地には水素製造拠点の建設が、東京オリンピックに使用する計画が進められています。周りには木工集成材の生産拠点、ドローンの滑走路が建設されます。

谷津田地区・酒井地区では太陽光発電の起工式が行われました。請戸の港周辺も整備され見違えるようになりまし

た。ぜひご見学ください。復興に向けての多くの事業が行われています。これらの事業が稼働すれば、さらなる復興が進むと思えます。

国は東日本大震災、原発事故からの復興期間を10年と考

えています。この間に浪江町の復興の道筋を立てなければなりません。そして私たちもこの間に生活の再建をしなくてはなりません。

私たちは今後の復興にどう立ち向かっていけばいいのか。先日、小田原市で開かれた全国報徳サミットに参加し、私たちの復興に非常に参考になると感じました。かつて相馬

供たちの声が聞こえるようになりました。11月には、寛仁親王妃信子殿下にご訪問いただき、激励をいただきました。浪江町をしっかりと引き継がなければならぬと改めて誓ったところであります。

次に、平成31年の施策について所信の一端を述べます。まず、買物環境の整備につきましては、現在、町の出店要望に応えたいという企業1社と協議中であります。出店の条件や今後の運営について慎重に検討を重ねていくところでありますが、最重要課題でありますので、1日でも早く整備できるような全力を傾注して取り組んでまいります。

# 新年のご挨拶

浪江町議会議長  
紺野 榮重



藩が天明・天保の飢饉で人口が半減し、農地が荒地となり、藩の財政が厳しい状況の時、移民政策と報徳仕法を取り入れ、農村復興と財政再建が行われました。

報徳仕法の精神は、現在の私たちに大いに参考となるのではないかと思います。教えの中には、「積小為大」という「小さな努力をこつこつと積み重ねて行けば、いずれは大きな収穫や力に結びつく」という考えがあります。そして「勤労」「分度」「推譲」です。

「勤労」とは「よく働くこと」。勤労の精神に基づき、地域が抱える様々な課題を町民と行政との協働を図る。

「分度」とは「収入と支出のバランス」で、町民生活の充実を図り、次世代を見据えた健全で未来志向の財政運営をしていくべきと思えます。

「推譲」は「助け合いの精神」であり、互いに助け合いこの災害に立ち向かっていかななくてはなりません。困難な事も多いと思えます。浪江町の復興、自然を取り戻すためにも力を合わせて頑張りましょう。

この一年が良い年になりますよう、町民の皆さまのご健康とご多幸をお祈りいたします。

浪江町にまたがる約50ヘクタールに整備される予定で、「生命をいたむ」「事実をつたえる」「縁をつなぐ」「息吹よみがえる」を基本方針として、平成32年度に一部開園を目指し整備されます。

浪江町に戻らない町民、様々な方々を支援する施策も引き続き進めたいと思えます。浪江町の復興と再生の実現には、まだまだ多くの課題の解決と時間が必要となりますが、ここに改めて皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、寒気の厳しい折、ご健康にご留意いただき新年がすばらしい年となることをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

浪江町議会議員  
(議席番号順)

- 大浦 泰夫
- 石井 悠子
- 高野 武
- 半谷 正夫
- 紺野 則夫
- 佐々木 勇治
- 平本 佳司
- 佐々木 恵寿
- 渡邊 泰彦
- 松田 孝司
- 山本 幸一郎
- 山崎 博文
- 泉田 重章
- 佐藤 文子
- 馬場 績